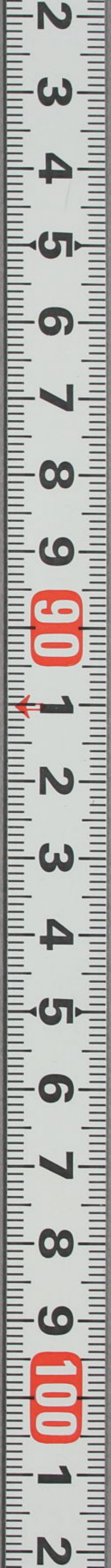


新編  
金瓶  
梅  
十集上  
馬琴作  
豐國畫

甘泉堂印

五抱





へ3  
4454  
19

新編金瓶梅第十集小序

物始の必終あり年の始の門松冬の終の煤掃竹と涯りと去櫻咲  
 く野の花筵の紅葉まき山の毛氈と終と酒の礼の始と乱れ終り色惑  
 ひ小始りて別れ終る稚子毎の竹馬の老ての後の杖を終りて紅顔  
 る新婦の雪の白髪の岳母と終りて浮世の走馬燈の輪廻りて書  
 ころの只の理りのとららば善悪忘報の虚しからぬ亦環の遠  
 る如し一善進めば一悪退く便是正路なり尚悪人時を以て仍  
 いるとこそあれ善者隱さざることを此は是邪徑之猶勅風猛  
 雨の五穀を破り嶂氣毒水の魚鱉と害ふと亦何を異るべ然  
 とも天運正路復りて日月隈なく照すと此の悪棍亡びて善人

壹

壹

栄え其名両ら世の貽りて後車の敬言ふ做る者彼西門屋啓  
 十郎尋金阿蓮も幾層の五人一旦不義の富も做せるも大原武  
 郎武松が孝悌義勇の大刀風ふ其又盡さる大團圓まで知音は  
 のせりの刊の中絶ありし今や發兌の時至りぬと甘泉堂の  
 求るまふく十集揃の王書とわした終りありてを作者の用心  
 始よりまじく意味あるを有眼不具眼非不乖知るも知らぬも推  
 並て拍掌驚馬奇せるもかゝるの書の終りを亦始より正木の蔓  
 繰り返して長く久しく世の看官ふ王并る幸あれりとる前勝ふ  
 寺守の筆と代書ふ任せの序と

弘化

紀元智辰稿本方成  
四年丁未春正月吉日發

曲亭馬琴重題





金瓶梅

















小の...  
 松竹の影をうけて...  
 此の巻の...

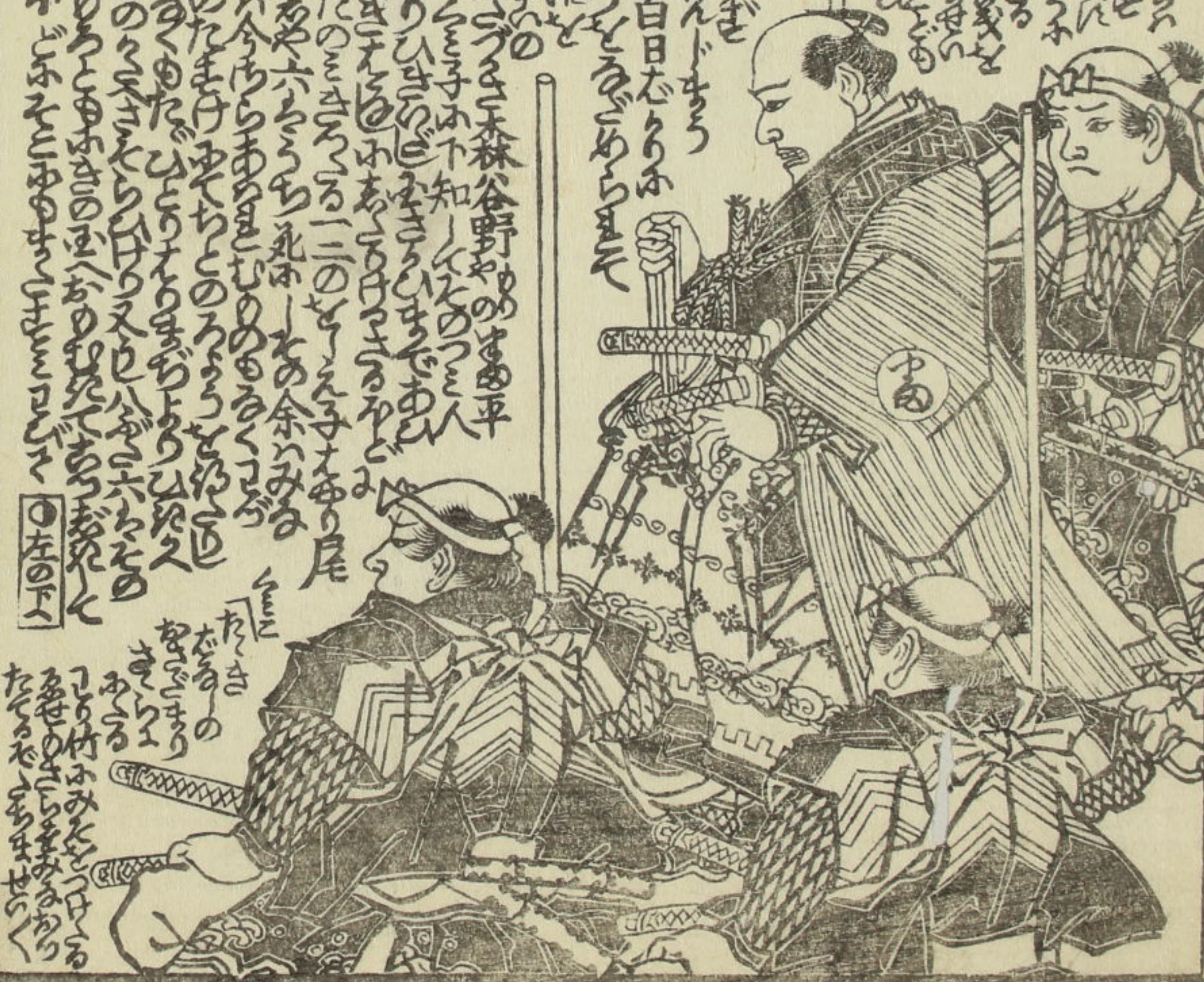


小の...  
 松竹の影をうけて...  
 此の巻の...



それとのおまゝく水とびの  
けの十弁のさだかろくを  
たのしむてこそおれんが  
志まのまゝ一弁とりのりともおれん  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
せよおれん八千五百のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく

▲左の上のらん  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく



おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく

おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく



おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく  
おのりてこれけの十弁のさだかろく



# 新編金瓶梅十輯 四冊

曲亭馬琴翁作  
一陽齋豊國画

# 女郎花五色石基

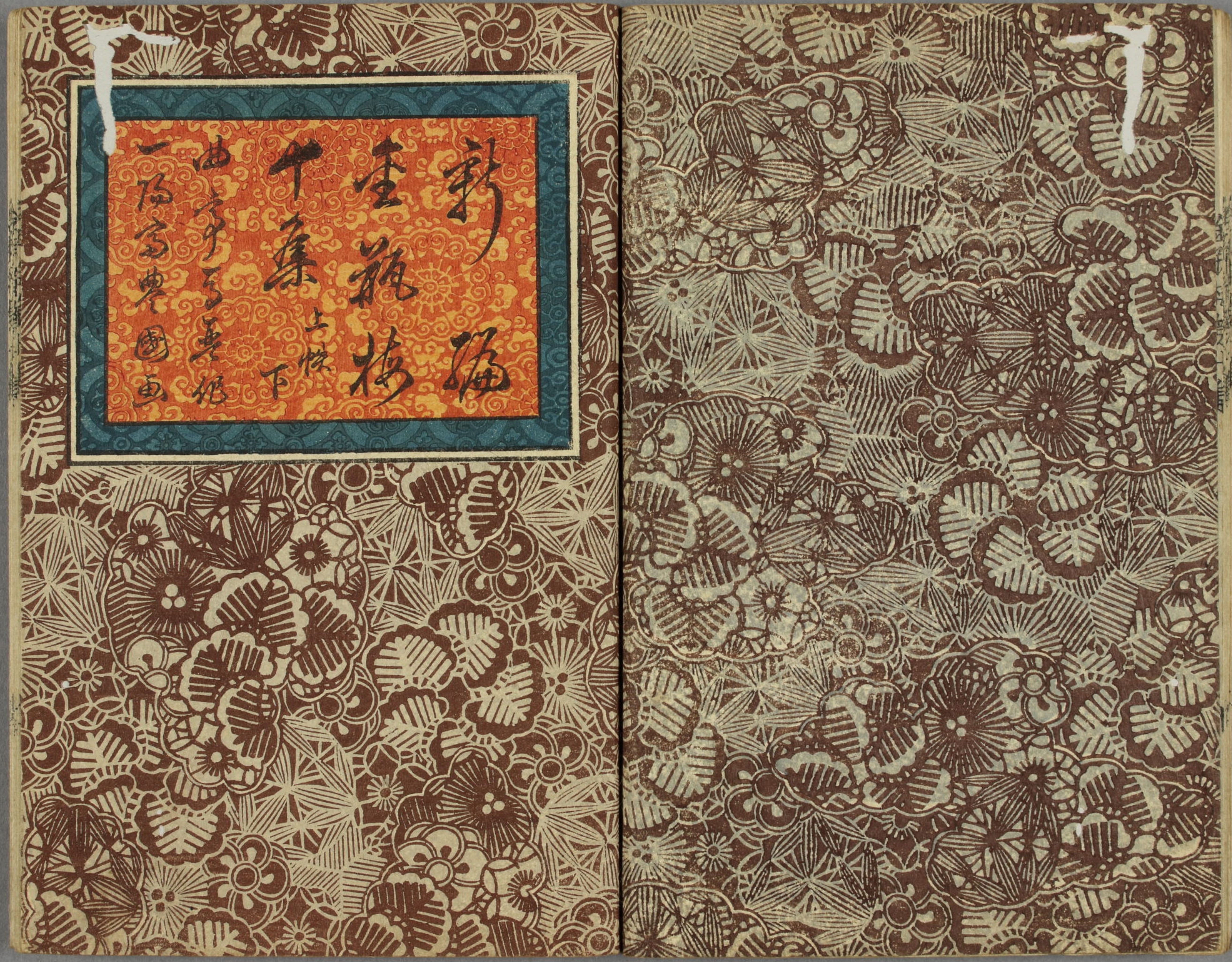
初編 曲亭馬琴翁作  
四冊 一陽齋豊國画

女郎花の一巻も赤の糸の如く花の如くしりしり近きとて此と止らぬかたの著  
 束のよりうそ生板するおぼやかりとていふも、さうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 校訂せむとて、おぼやかりとていふも、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 とて、おぼやかりとていふも、さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

# 先雷也豪傑譚七編 出板

美圖垣笑顔作  
一陽齋豊國画

新編  
聖瓶梅  
十集  
上卷  
下  
由  
一  
國  
画



























かやせとみか... 天ある地ある... 利名は...

地を... 利名は... 十四五... 利名は...



# 馬琴作

## 國貞改 浄書金川 豊國画

石地箱... 浄書金川... 豊國画... 国貞改...

### 甘泉堂蔵板略目

#### 壽福二世相大鏡

世に世おの... 鏡... 大鏡... 壽福二世相大鏡...

#### 源氏繪かゝり 板彩色

源氏繪かゝり... 板彩色... 源氏繪かゝり...

#### 源氏繪かゝり 板入

#### 江戸菓子話船橋

江戸菓子話船橋... 菓子... 船橋... 江戸菓子話船橋...

江戸書肆 芝神明前 和泉屋市兵衛



特別  
^13  
4454  
19